

2026 年 8 月 吉日

株式会社シード・プランニング

高齢者/病者用食品市場の現状を調査、
2025 年の高齢者用食品市場は 1,409 億円、病者用食品市場は 587 億円に
～高齢化や在宅医療・介護の拡大を背景に需要が拡大～

高齢者/病者用食品市場の現状 2026

～高齢者人口の増加を背景に市場成長が続く高齢者/
病者用食品市場の動向と参入企業の事業戦略を分析～



株式会社シード・プランニング（本社：東京都文京区、代表取締役社長：梅田 佳夫）は、国内の高齢者／病者用食品市場について調査を実施し、高齢者用食品および病者用食品の市場動向や製品カテゴリー、主要企業の取り組みなどを分析しました。

本調査では、高齢者人口の増加や在宅医療・介護の拡大を背景に成長が続く高齢者／病者用食品市場について、市場規模の推移や製品カテゴリー別の動向、主要企業の取り組みなどを調査しました。

あわせて、市場成長の背景や今後の市場動向について分析し、高齢者／病者用食品市場の現状を明らかにしました。

●調査の詳細はこちら

<https://www.seedplanning.co.jp/news/6451/>

◆調査の背景と目的

現在、わが国では総人口の減少が続く一方、高齢者人口は増加を続けており、高齢者の健康維持や低栄養対策、

疾病管理への関心が高まっています。高齢者や病者に適した食品は、医療・介護現場だけでなく、在宅での栄養管理を支える製品としても重要性を増しています。

近年は、高齢者施設や病院に加え、在宅介護や一般家庭での利用拡大を背景に、高齢者用食品・病者用食品の市場環境も変化しています。製品の多様化や販売チャネルの拡大が進む一方、市場全体の構造や成長要因を整理した情報へのニーズも高まっています。

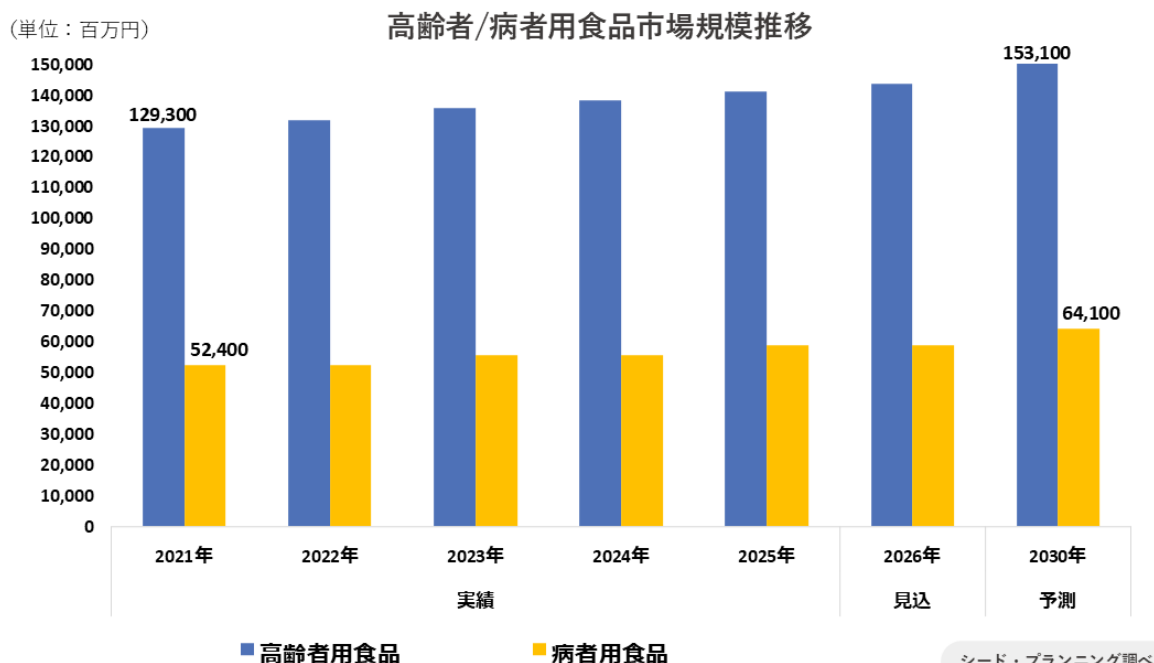
本調査では、高齢者／病者用食品市場について、市場規模の推移、製品カテゴリー・ブランド別の販売動向、主要企業の取り組みなどを調査・分析し、市場の現状を整理しました。

◆調査トピックス

- 高齢者／病者用食品市場の現状を整理、市場構造を分析
- 高齢者用食品・病者用食品の製品カテゴリー別動向を整理
- 高齢化や在宅介護の進展など、市場成長を支える背景を分析
- 主要企業の事業展開や市場環境の変化を整理

◆高齢者/病者用食品市場の動向

高齢者/病者用食品市場の現状 2026



※本サンプルは閲覧用資料です。掲載数値は四捨五入処理を行っており、レポート本編掲載値とは一部異なる場合があります。

高齢者／病者用食品市場は、高齢化の進展や在宅医療・介護の拡大を背景に、今後も安定した需要が見込まれます。

高齢者用食品市場は 2021 年の約 1,293 億円から 2030 年には約 1,531 億円で CAGR1.9%、病者用食品市場は約 524 億円から約 641 億円で CAGR2.3%へ拡大すると見込まれています。

高齢者用食品では、完全調理済み食品や水分補給飲料など、高齢者の日常的な食生活を支える商品の需要が市場をけん引しています。一方、病者用食品では、PEM（低栄養）対応食品や大腸検査食など、疾患や栄養管理に対応した食品への需要が市場を支えています。

また、病院や介護施設に加え、在宅医療・在宅介護での利用が拡大していることから、今後は、高齢者・病者の QOL 向上だけでなく、医療・介護現場の負担軽減を支える食品として、その役割は一層重要になることが期待されます。

本調査では、高齢者用食品市場と病者用食品市場それぞれについて、市場規模の推移だけでなく、製品カテゴリー別動向や主要企業の事業展開、市場構造の変化についても分析しています。市場の現状把握や今後の事業戦略の検討に活用できる内容となっています。

◆調査概要

調査対象：

【企業】

高齢者用食品・病者用食品の関連メーカー、販売事業者等

【分野】

・栄養補給食品・濃厚流動食、水分補給・経口補水液、咀嚼・嚥下補助食品、腎臓病対応食品、糖尿病対応食品、褥瘡・PEM 対応食品、鉄・カルシウム・ファイバー・プレバイオ/プロバイオ補強食品、大腸検査食品

調査方法：

・専門調査員による直接ヒアリング調査及びインターネット等を用いた情報収集

調査項目：

・市場規模推移/メーカーシェア/製品カテゴリー・ブランド別販売動向/販売先構成比・流通動向など

調査期間：

2026 年 3 月～2026 年 6 月

資料についてのお問い合わせ

広報宣伝部 E-mail : koho@seedplanning.co.jp